

11年7月26日

No. 3

又ハ岩穿機ヲ使用ス。

製煉法ハ搗鑛ト著化法ヲ保用シ居ルモ旧式ノ搗鑛法ハ極メテ一
小部分ニ過ヤズ。而シテ器械全般ノ動力ハ製煉所ヲ距ル南方
四里ノ伊集院村轟龍下部ニ水力発電所ヲ設ケ尙發電所
ト配置所間ハ電話ヲ架設シ運轉ノ安全ヲ期セリ。

明治四十二年五月製煉所設置以前ニテハ自稼請負法ヲ採用セシ
數ヲカリシモ其後漸減シテ自下一人アルニ此ノ請負法ハ自稼主
ノ指定セル區域内ニ於テ自營採掘シ之ヲ各自ノ水車ニ因リ搗鑛製煉
シ其ノ鑛尾ヲ著化法ニ附シ其收得先金塊ヲ一定價格ヲ以テ鑛主ニ納
入スルモノナリ。明治四十二年ニハ自稼人六十二人 附屬坑夫五五〇人 水車
二〇二臺 杵數二六一ニアリシナリ。

(附) 三井ノ串本野金山ニ旧式ノ搗鑛及自稼人ハ皆無ナリ

(2) 坑夫ト慰安